

大学院医学研究科 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

〔医学専攻（博士課程）〕

医学専攻は、学生が希望する研究領域の講座等における徹底した個人指導によって、医学研究（基礎研究や臨床研究）の基盤的な専門知識と技能、ならびに、研究を企画・遂行できる能力を修得することができる内容としています。

指導には医学部の教員だけでなく産業生態科学研究所の教員も携わり、医学における各分野を網羅し、さらに、専門領域に踏み込んで研究指導にあたります。

- 1 「共通科目」は、医学倫理・研究倫理、研究における利益相反、疫学・統計学基礎、英語論文作成手法等の基盤的な科目である「産業医学研究基盤コース」、本学の特色である産業医精神を涵養する「産業医学特論」、各専門領域の知識を概括する「医学研究概論」、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけるために専門的分野の講義のすべてを英語で行う「医学英語特別コース」を設置し、必修としています。
- 2 「専門領域科目」は、特論、演習、実習及び論文指導の科目で構成し、学生は、自らの所属する講座等が行う特論等の科目を履修し、加えて他の講座等が行っている関連する領域の特論等の科目も広く履修できる内容としています。
- 3 実践的な教育の機会や学術発表指導により、自らの学識を教授する能力を身につけることができる内容としています。また、国際社会に通用するグローバルな能力（英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、文献読解力ならびに英文作成力）を修得することを目標としています。
- 4 「専門医養成講座」は、専門医に必要となる知識を修得することができる内容としています。
- 5 こうした系統的な教育を行う一方で、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画し、チーム医療を指導しうる人材を養成する「がん専門医師養成コース（がん治療と就労の両立支援医師養成コース、がんゲノム医療重点コース）」を設置し、「がん専門医師養成科目」を開講しています。「がん専門医師養成科目」の履修により、高度な臨床能力を修得することができます。なお、「がん専門医師養成科目」はすべての学生が履修することが可能です。

〔産業衛生学専攻（博士課程前期）〕

産業衛生学専攻（博士前期課程）は、17 の産業衛生学の専門領域で構成し、「共通科目」と「専門領域科目」を配置した教育内容としています。

- 1 「共通科目」は、産業衛生学分野の学習を深化、進展させるための能力を身につけるための基盤となる科目としています。さらに、幅広い知識を得るために、本研究科に共通の科目（研究科共通）と産業衛生学専攻に共通の科目（専攻共通）を設置し、学生は、これらの科目をすべて履修し、大学教育で履修していない内容でも産業衛生学において必須の知識が修得できる内容としています。
- 2 「専門領域科目」は、特論、演習、実習及び論文指導の科目で構成し、学生は、大学の教育課程での履修内容に基づいて推奨する領域の中から、1 領域を履修できる内容としています。
- 3 学生の能動的学習活動を支援するために、学生参加型の授業を展開しています。
- 4 修士論文作成への指導・支援を行い、多様な視点からの指導が可能となるよう複数の指導教員により指導します。

〔産業衛生学専攻（博士課程後期）〕

産業衛生学専攻（博士後期課程）は、前期課程における産業衛生学の 13 の専門領域を、後期課程では 6 領域に集約し、「共通科目」と「専門領域科目」を設置した教育内容としています。

- 1 「共通科目」は、学生の主体性や能動性を引き出す教員と学生による双方向型の講義を行い、研究の思考性の基となる多面的アプローチを行う素養を身につける科目としています。
- 2 「専門領域科目」は、産業衛生学の中で履修者が専門とする領域に関する探究を深めることができる内容としています。
- 3 実践的な教育の機会や学術発表指導により、自らの学識を教授する能力を身につけることができる内容としています。また、国際社会に通用するグローバルな能力（英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、文献読解力ならびに英文作成力）を修得することを目標としています。
- 4 博士論文作成への指導・支援を行い、多様な視点からの指導が可能となるよう複数の指導教員により指導します。
- 5 後期課程からの入学者は、「産業衛生学研究概論（前期課程の必修科目）」の受講を推奨しています。

[看護学専攻（修士課程）]

看護学専攻（修士課程）は、6つの看護学領域で構成し、「共通科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「看護学特別研究」を配置した教育内容としています。

- 1 「共通科目」は、各看護学領域の学習を深化、進展させるための能力を身につけるための基盤となる科目とし、その内容を十分咀嚼できる限定した科目としています。幅広い知識を得るために、「看護研究方法論」、「英語文献読解」、「医療統計学」、「看護倫理学」、「看護理論特論」を必須、医学専攻との合同科目である「看護研究基盤コース」、「医学英語特別コース」を選択としています。
- 2 「専門基礎科目」は、看護実践・看護技術開発コースでは、「疾病治療論」及び「臨床看護研究」を必須、看護教育・人材育成コースでは、「看護教育論」及び「看護研究方法論（応用）」を必須と、各コースに応じた科目設定をしています。また、「地域包括ケアシステム特論」、「ヘルスリテラシー特論」、「国際保健学」を選択としているほか、学生の希望に応じて、それぞれのコースの必修科目からも選択することができます。
- 3 高度な看護実践者、看護管理者、看護教育者、看護研究者を目指すために、「専門科目（健康支援・高齢者支援看護学、生活支援看護学、母子支援看護学、コミュニティ看護学、看護管理学、メンタルヘルス看護学の6領域）」において、当該領域の看護学特論、演習Ⅰを履修後、演習Ⅱでその領域の研究能力を身につけることができる内容としています。さらに、将来目指す進路を考慮して、他領域の看護学特論及び演習Ⅰの科目も有機的に関連づけて履修できる内容としています。
- 4 「看護学特別研究」では、看護実践・看護技術開発コースと看護教育・人材育成コースの学生のキャリア志向別に、ディスカッションしながら研究を進められるように設定しています。
- 5 学生の能動的学習活動を支援するために、学生参加型の授業を展開しています。
- 6 修士論文作成への指導・支援を行い、多様な視点からの指導が可能となるよう複数の指導教員により指導します。
- 7 それぞれの授業は、各看護学領域において、「入院中の個々の患者を中心とした看護」にとどまることなく、その後の家庭・職業生活などの社会生活を視野に入れ、生活に密着した健康支援という看護の最重要な観点から対象の自己管理と自立を視座に置く看護の追究をすることにより、複雑化・高度化する社会の多様なニーズを持つ人々に対応した臨床における高度な看護実践能力と研究的思考能力を備えた看護実践者を養成する内容としています。
- 8 また、人口動態や家族形態が著しく変化し、個人の健康問題であっても、家族や職場にとどまらず、コミュニティ全体で支援が必要になってきている状況を踏まえ、健康課題についてコミュニティを基軸として保健・医療・福祉をシステムの思考で捉え、変化する状況を多角的に分析し、マネ

ジメントのあり方を追求し、保健・医療・福祉領域における高度なマネジメント能力と研究的思考能力を備えた看護管理者、看護教育者、看護研究者を養成する内容としています。